

は　じ　め　に

甲府市立玉諸小学校
校長 市川 修 策

平成26年度より全国学力学習状況調査の結果を、競争原理と説明責任という言葉のもと、公表してきました。甲府市では、今のところ正答率等の数値そのものを公表せず、各校の優れた点や課題となる点を明らかにして、どのように授業や指導の改善を図っていくかといった方針を公表しています。具体的な数値の公表の是非には様々な考え方がありますが、極端な数値主義により学校の序列意識が進行することを危惧する声も多くあります。このような状況の中で大切なのは、結果としての数値の善し悪しに一喜一憂するのではなく、本校の児童はどのような面が優れていて、どのような面に課題があるのかをしっかりと分析し、子どもたちの学力を伸ばさせる手だてを講ずることだと考えます。また、全国学力学習状況調査で明らかになるのは、学力の一側面ではありますが、結果として、その一側面が十分に育っていないというのであれば、それはそれで大きな課題と考え、授業改善や指導の改善に繋げていくことは重要なのではないのでしょうか。

今年度の本校の校内研究は、こうした考えの上に立ち、昨年度取り組んだ全国学力学習状況調査の結果や県教育委員会の行う学力把握調査の結果等の分析から本校児童に育てなければならない課題として、「書く力」に着目しました。そして、国語科における言語活動を中心に研究を進め、特に「単元を貫く言語活動」としてどのような内容を設定するのかや授業展開の核となる「言語意識」についての研究などをもとに低学年・中学年・高学年から計3回の授業研究を行うこととしました。児童の抱える課題や育てたい力を全教職員で共有するなかで、授業を通して、課題を乗り越えるための手だてを明らかにする取り組みとなりました。

これまでも、校内研究で力点を置いて取り組んできたことは、成果として子どもたちの姿となって表れています。今年度のこの研究は本校の子どもたちの真の学力の向上につながっていくものと考えます。